

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 国語 科目 現代の国語

教科：国語 科目：現代の国語 単位数：2 単位
対象学年組：第2学年 1組～4組
教科担当者：（1組：長谷川・家田）（2組：長谷川・家田）（3組：野末・家田）（4組：野末・家田）
使用教科書：（第一学習社 現代の国語）

教科 現代の国語 の目標：
【知識及び技能】日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。□
【思考力、判断力、表現力等】日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。□
【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、その能力の向上を図る態度を養う。【

科目 現代の国語	の目標：
文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。
	姿勢正しく、進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			基	関	読					
1 学 期	評論「生きもの」として生きる 【知識及び技能】 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 筆者の提案する人間の生き方について、文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。 ・教材/「生きもの」として生きる ・授業ファイル・ノート・国語便覧・常用漢字練習・一人1台端末の活用 等			○	【知識・技能】文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	7
	小説「羅生門」 【知識及び技能】常用漢字を文や文章の中で活用する。 【思考力、判断力、表現力等】文章を読み、自分の意見や考えを論述する方法を学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。 ・教材/「羅生門」 ・授業ファイル・ノート・国語便覧・常用漢字練習・一人1台端末の活用 等			○	【知識及び技能】常用漢字を文や文章の中で活用できている。 【思考力、判断力、表現力等】文章を読み、自分の意見や考えを論述する方法を学び、理解している。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○	○	○	8
	定期考査						○	○		1
	評論「本当の自分」幻想 【知識及び技能】 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための論の展開について考える。「自分」への理解を深める。 ・教材/「本当の自分」幻想 ・授業ファイル・ノート・国語便覧・常用漢字練習・一人1台端末の活用 等			○	【知識・技能】文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	7

合計
70

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学A

教 科： 数学 科 目： 数学A 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組

教科担当者：（1 組：田中友貴・清水想士）（2 組：田中友貴・清水想士）（3 組：田中友貴・岸本俊之）（4 組：田中友貴・清水想士）

使用教科書：（数研出版 新 高校の数学A）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象の数学化、数学的解釈数学的な表現や処理をする技能を身に付ける。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	場合の数と確率 第1節 場合の数 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	指導事項 ・集合 ・集合と要素の個数 ・和の法則と積の法則 ・順列 教材 ・教科書学習ノート 数学A	【知識・技能】 和の法則，積の法則，そして順列・組合せの考えを理解して，場合の数を求め，それから確率を求めるための知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 順列・組合せなどの場合の数の求め方を身につけ，具体的な事象の確率を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 不確実な事象を数学的にとらえることの有用性を認識し，具体的な事象の考察に活用しようとする。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	指導事項 ・組み合わせ ・事象と確率 ・確率の計算 教材 ・教科書学習ノート 数学A	【知識・技能】 順列・組合せの考えを理解し，場合の数を効率よく正確に求めるための基礎的な力を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・場合の数を考えるに当たって，順序を考えるか否かに気づくことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 確率を求める場面が容易に理解できる簡単な場面について条件付き確率を求めようとする。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
2 学 期	場合の数と確率 第2節 確率 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	指導事項 ・独立な試行と確率 ・条件つき確率 ・期待値 教材 ・教科書学習ノート 数学A	【知識・技能】 独立な試行と反復試行について理解し，基礎的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 2つの独立な試行における2つの事象が同時に起こる確率を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 三角形や円など図形の性質に関心をもつとともに，それらの有用性を認識し，問題の解決に活用しようとする。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	図形の性質 第1節 平面図形 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	指導事項 ・図形の基本 ・角の二等分線と線分の比 ・三角形の外信、内心、重心 ・円周角の定理 ・円に内接する四角形 ・円の接線 教材 ・教科書学習ノート 数学A	【知識・技能】 図形の性質を系統的に理解し，基礎的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 図形の見方を豊かにするとともに，図形の性質を見出し，論理的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業での取り組む姿勢、課題への取り組む姿勢を評価する。	○	○	○	13

	定期考查			○	○	1
3 学 期	図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形 平面図形や空間図形の性質について の理解を深め、それらを事象の 考察に活用できるようにする。	指導事項 ・方べきの定理 ・2つの円 ・作図 ・空間の直線、平面 ・正多面体 ・立体の切断 教材 ・教科書学習ノート 数学A	【知識・技能】 2直線や2平面の位置関係や直線と平面の位置 関係、多面体などに関する基本的な性質を理 解し基礎的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 三角形の基本的な性質などを用いて、空間図 形のいろいろな性質を見出し、それらが成り 立つ理由を論理的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 2直線や2平面の位置関係や直線と平面の位置 関係、多面体などに関する基本的な性質を調 べようとする。	○	○	12
	定期考查			○	○	1
						合計
						70

北豊島工科 高等学校 令和 8 年度（2 学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅠ

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組

使用教科書：（ All Aboard! English Communication I（東京書籍） ）

【知 識 及 び 技 能】英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深める。

【思考力、判断力、表現力等】英語で情報や考えなどを的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりできる。

【学びに向かう力、人間性等】主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

科目 英語コミュニケーションⅠ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
4技能の基礎的な能力を学ぶ。	日常的な話題や身近な状況の会話を身につける。	英文、英会話などに対し前向きな姿勢を見せ、理解をしようとする。また、自分の考えや情報を相手に伝えようとする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
			聞	読	話 〔や〕	話 〔発〕	書						
1 学 期	A 単元 Lesson 6 【知識及び技能】 受身を用いた文の理解 知覚動詞を用いて表現	・指導事項 受身	○	○			○	観察 ワークブック 小テスト プリント		○	○	○	1
	B 単元 Lesson 7 【知識及び技能】 比較を用いた文の理解 【思考力、判断力、表現力等】 関心のある人物について説明する 【学びに向かう力、人間性等】 アンネフランクについて学ぶ	・指導事項 比較表現 ・教材 プリント	○		○		○	観察 ワークブック 小テスト プリント		○	○	○	13
	定期考査									○	○		1
2 学 期	C 単元 Lesson 8 【知識及び技能】 現在完了形を用いた文の理解 【思考力、判断力、表現力等】 人 の生活を豊かにするロボットについ て考え、英語で提案	・指導事項 現在完了形 ・教材 ワークブック プリント	○	○	○		○	観察 ワークブック 小テスト プリント		○	○	○	14
	D 単元 Lesson 9 【知識及び技能】 分詞を用いた文の理解 【思考力、判断力、表現力等】 環境を守るためにについて英語で述べ ることができる 【学びに向かう力、人間性等】 環境汚染について学ぶ。	・指導事項 分詞 ・教材 ワークブック プリント	○	○	○		○	観察 ワークブック 小テスト プリント		○	○	○	15
	定期考査									○	○		1
3 学 期	E 単元 Lesson 10 【知識及び技能】 関係代名詞を用いた文の理解 【思考力、判断力、表現力等】 好きなことと将来の夢について英語 で述べることができる 【学びに向かう力、人間性等】 スピーチテストに積極的に参加す	・指導事項 関係代名詞 ・教材 ワークブック プリント	○	○	○		○	観察 ワークブック 小テスト プリント		○	○	○	13
	F 単元 スピーチテスト 【知識及び技能】 道案内 【思考力、判断力、表現力等】 行ってみたい場所について英語で述べ ることができる 【学びに向かう力、人間性等】 スピーチテストに積極的に参加す	・指導事項 道案内の基本を身に着ける ・教材 プリント	○		○		○	観察 ワークブック 小テスト プリント		○	○	○	1
												合 計	70

北豊島工科高等学校 令和8年度（2学年用）地理歴史 科目 地理総合

教 科： 地理歴史 科 目： 地理総合 単位数： 2 単位
対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 4 組
教科担当者： （1組：槇野 （2組：槇野 （3組：瓦田 ） （4組：瓦田 ）
使用教科書： （ 東京書籍 ）
教科 地理歴史 の目標：

- 【 知 識 及 び 技 能 】 現代世界の地域的特色と日本や世界の歴史の展開を理解する。諸資料から情報を適切に読み取り効果的に活用し、表現する知識・技能を身に着ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史にかかわる事象の意義や概念を用いて多角的に考察し、議論する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる事象について主体的に解決しようとする態度を養い、多角的考察し、日本や諸外国の文化を尊重する態度を培う。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象について世界の生活文化等の特徴や地域的課題について多面的・多角的に理解し、地形図やGIS等を利用し資料を効果的に調べ、まとめる力を身に着ける。	地理にかかわる事象や意味や意義、特色についての地理的関連性や分布について相互に依存している点に着目し、概念を用いて、地理的課題の解決について考察し、構想した内容を説明したり、討議する力を養う。	地理にかかわる諸事象について、課題について主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに日本や諸外国にの多様な生活文化を尊重する姿勢を培う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 単元 自然環境と防災 【知識及び技能】 ・地震や気候のメカニズムを理解する。 ・地震、火山、気候による災害を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地震や気候のメカニズムを説明できるようになる。 ・ハザードマップなど自治体が出す地図情報から、防災を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・資料を活用し、課題を追及し、解決したりする活動に主体的に取り組む。 ・この学びを基礎として、「防災士」の資格取得を目指し、主体的に命を守る存在になる。	・指導事項 ・教材 教科書、プリント ・BYOD端末の活用 等	【知識及び技能】 ・地震、火山、気候のメカニズム及び、災害について理解をしている。 【思考力、判断力、表現力等】 資料から関連性や相違点を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 資料を活用し、課題を追及し、解決したりする活動に主体的に取り組める。	○	○	○	8
				○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	A 単元 私たちが暮らす世界 【知識及び技能】 ・緯度・経度や地軸の傾きで時差が生じる仕組み等を理解する。 ・地図の種類や目的に応じた使用について理解する。 ・日本の領域についてその特徴や課題について理解する。 ・主題図を用いて地理的な特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 資料から関連性や相違点を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料を活用し、課題を追及し、解決したりする活動に主体的に取り組む。	・指導事項 ・教材 教科書、プリント ・BYOD端末の活用 等	【知識及び技能】 ・緯度・経度や地軸の傾きで時差が生じる仕組み等を理解できる。 ・地図の種類や目的に応じた使用について理解できる。 ・日本の領域について特徴や課題について理解できる。 ・主題図を用いて地理的な特徴を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 資料から関連性や相違点を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 資料を活用し、課題を追及し、解決したりする活動に主体的に取り組める。	○	○	○	8
				○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
2 学 期	C 単元資料から読み取る現代世界 【知識及び技能】 ・交通手段の多様性やその長所や短所、生活の変化について理解する。 ・情報通信ネットワークや生活の変化について理解する。 ・国境を越える人々や貿易の拡大について理解する。 ・文化の多様性や特徴、宗教による習慣や文化のちがいを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 資料から関連性や相違点を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料を活用し、課題を追及し、解決したりする活動に主体的に取り組む。	・指導事項 ・教材 教科書、プリント ・BYOD端末の活用 等	【知識・技能】 ・交通手段の多様性やその長所や短所、生活の変化について理解できる。 ・情報通信ネットワークや生活の変化について理解できる。 ・国境を越える人々や貿易の拡大について理解できる。 ・文化の多様性や特徴、宗教による習慣や文化のちがいを理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 資料から関連性や相違点を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 資料を活用し、課題を追及し、解決したりする活動に主体的に取り組める。				9
	定期考査						1
	D 生活文化と自然環境 【知識及び技能】 ・山地や平地・海岸地域の生活の営みの特徴や土地利用の変化を理解する。	・指導事項 ・教材 教科書、プリント ・BYOD端末の活用 等	【知識及び技能】 ・山地や平地・海岸地域の生活の営みの特徴や土地利用の変化を理解できる。 ・熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の気候的特徴や生活の営みの特徴を理解できる。				

	・熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の気候的特徴や生活の営みの特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 資料から関連性や相違点を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料を活用し、課題を追究し、解決したりする活動に主体的に取り組む。		【思考力、判断力、表現力等】 資料から関連性や相違点を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 資料を活用し、課題を追究し、解決したりする活動に主体的に取り組むことができる。				16
	定期考査						1
3 学 期	E さまざまな地球的課題と国際協力 【知識及び技能】 ・地球温暖化や森林減少について生産・消費活動に起因して発生することを理解し、解決に向けた取り組みを考える。 ・資源エネルギー問題について生産地や消費地の地理的特徴を理解し、齊瀬可能エネルギーが普及しにくい要因について理解する。 ・人口問題や食糧問題について理解し、高齢化問題についての取り組みや食の安全に対して理解する。 ・都市問題について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 資料から関連性や相違点を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料を活用し、課題を追究し、解決したりする活動に主体的に取り組む。	・指導事項 ・教材 教科書、プリント ・BYOD端末の活用 等	【知識及び技能】 ・地球温暖化や森林減少について生産・消費活動に起因して発生することを理解し、解決に向けた取り組みを考えられる。 ・資源エネルギー問題について生産地や消費地の地理的特徴を理解し、齊瀬可能エネルギーが普及しにくい要因について理解できる。 ・人口問題や食糧問題について理解し、高齢化問題についての取り組みや食の安全に対して理解できる。 ・都市問題について理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 資料から関連性や相違点を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 資料を活用し、課題を追究し、解決したりする活動に主体的に取り組むことができる。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

東京都立北豊島工業高等学校 令和8年度年間授業計画

教科:(理科)科目:(物理基礎) 対象:(第2学年1組～4組)

教科担当者:(1～4組:相川潤也)

使用教科書:新物理基礎(第一学習社) 使用教材:プログレス物理基礎、演習プリント 単位数:

指導内容 【年間授業計画】		理科・物理基礎の具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時数
4月	序章 物理の世界 1節 物理学とは 2節 物理量の測定 第1章 物体の運動 1節 運動の表し方 2節 力 3節 運動の法則	・物理学とはどういう内容で、なぜ学ぶのか、物理学の方法とはどのようなものかを概説する。 ・単位と次元、有効数字について理解し、これからの学習の基礎とする。 ・直線運動における変位、速度、加速度、速度の合成、相対速度などの運動の表し方を学び、速度・加速度の概念を理解する。	6
5月			6
6月			8
7月			6
9月	第2章 エネルギー 1節 運動とエネルギー 2節 熱とエネルギー	・エネルギーと仕事の基礎概念を理解する。 ・運動エネルギーと位置エネルギーについて理解し、一定の条件のもとで力学的エネルギーが保存することを理解する。 ・熱のマクロ的な意味、ミクロ的な意味を理解する。 ・熱容量と比熱について理解し、熱量保存の法則を理解する。 ・熱と仕事の関係を理解し、熱力学の第一法則について理解する。	8
10月			6
11月			6
12月			4
1月	第4章 電気 1節 電流 2節 電気の利用	・摩擦電気・静電気について、理解する。 ・電流と電気量について理解する。 ・オームの法則や電気抵抗の直列接続、並列接続、抵抗率について理解する。 ・半導体とダイオード、トランジスタについて理解する。 ・電力と電力量、ジュール熱について理解する。 ・磁場と電流が作る磁場について理解する。 ・電流が磁場から受ける力について理解する。 ・電磁誘導について定性的に理解する。 ・モーターと発電機の原理について理解する。 ・直流と交流の違い、交流の実効値について理解する。 ・変圧器について理解する。 ・電磁波の性質について理解する。	6
2月			8
3月	第5章 人間と物理 1節 エネルギーとその利用 2節 物理学が拓く世界	・わたしたちの日常生活で使うエネルギーの源を理解する。 ・放射線、核エネルギー、原子力発電について理解する。 ・エネルギーの変換とエネルギー保存について理解する。 ・物理の応用と日常生活、物理の未来について理解する。	2
評価の観点・方法		「定期テスト」、「課題提出」、「授業に取り組む姿勢」を総合的に判断して成績を出す。	

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組

教科担当者：（1組：永山）（2組：永山）（3組：永山）（4組：永山）

使用教科書：（ ）

教科 保健体育 の目標：生涯にわたって健康な生活を送っていただける体力・技能・知識を身につける

【知識及び技能】さまざまな運動種目の技能やそれに必要な体力とルールを身につける。

【思考力、判断力、表現力等】さまざまな運動種目の技能の習得とそれに必要な体力の向上やルールについて身につける工夫をする。

【学びに向かう力、人間性等】さまざまな運動種目の技能の習得とそれに必要な体力の向上やルールについて身につける努力をする。

科目 体育 の目標：生涯にわたって健康な生活を送っていただける体力・技能・知識を身につける

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
様々な運動種目が有ることを知りその技能を身につける。	安全に留意しながらその運動を楽しむことができるようにする。	仲間と協力しながら練習し運動を楽しめるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 バドミントン 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 基本的な打ち方	【知識・技能】 ・それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	6
	B 単元 アルティメット 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 試合のルール	【知識・技能】 ・それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	7
	C 単元 体力テスト 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 正しい測定方法	【知識・技能】 ・それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	6
	D 単元 水泳 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 基本的泳法	【知識・技能】 ・それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	7
2 学 期	A 単元 水泳 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 基本的泳法	【知識・技能】 ・それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	6
	B 単元 サッカー 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 キックの基本 ボールコントロール 試合	【知識・技能】 ・それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	11
	C 単元 バスケットボール 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 パス シュート ド リブル 試合	【知識・技能】 ・それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	11
3 学 期	A 単元 持久走 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 持久走	【知識・技能】 ・それぞれの種目の基礎技能を修得しようと取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ・ルールや運動特性を理解しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・協力して取り組んでいるか。	○	○	○	16

高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 保健体育 科目 保健

教 科： 保健体育 科 目： 保健 単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組

教科担当者：(1組：永山) (2組：永山) (3組：永山) (4組：永山)

使用教科書：(現代高等保健体育)

教科 保健体育 の目標： 生涯にわたって健康な生活を送っていける体力・技能・知識を身につける

【知 識 及 び 技 能】生涯にわたって健康な生活を確立・維持していけるような知識を身につける

【思考力、判断力、表現力等】健康な生活を確立・維持していけるよう自ら考え、行動できるようにする

【学びに向かう力、人間性等】健康な生活を保っていけるような知識を身につけようと努力する姿勢を持つ

科目 保健 の目標： 生涯にわたって健康な生活を送っていける知識を身につける

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたって健康な生活を送れるような知識と技能を身につける。	健康な生活を確立しそれを維持していけるよう自ら考え、行動できるようにする。	健康な生活を保っていけるような知識と技能を身につけようと努力する姿勢を持つ。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 生涯を通じる健康 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 思春期と健康 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	3
	B 単元 生涯を通じる健康 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 性意識と性行動の選択 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	3
	C 生涯を通じる健康 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 妊娠・出産と健康 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	3
	D 単元 生涯を通じる健康 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 結婚生活と健康 働くことと健康 労働災害と健康 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		
2 学 期	A 単元 生涯を通じる健康 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 健康的な職業生活 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	7
	B 単元 健康を支える環境づくり 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染 と健康 環境と健康にかかわる対策 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	7
3 学 期	A 単元 健康を支える環境づくり 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染 と健康 環境と健康にかかわる対策 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で3回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で3回の定期考査や課題、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	8
	定期考査						

年間授業計画 様式例

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 家庭基礎 科目 家庭基礎

教 科： 家庭基礎 科 目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組

教科担当者：（1～4組：奥田・下井）

使用教科書：（ 家庭基礎 自立・共生・創造 ）

教科 家庭基礎 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に着けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】様々な人々と協働し、よりよく社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとおもに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に着けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよく社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとおもに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 人の一生と家族・家庭及び福祉 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	5
	B 単元 衣食住の生活の自立設計 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で2回の定期考査で理解度を測る。 年間6回の実習で技能を習得する。 【思考・判断・表現】 年間で2 回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で2 回の定期考査や調理実習、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	6
	A 単元 人と一生と家族・家庭及び福祉 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で2回の定期考査で理解度を測る。 【思考・判断・表現】 年間で2 回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で2 回の定期考査や調理実習、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	4
	B 単元 衣食住の生活の自立と設計 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で2回の定期考査で理解度を測る。 年間6回の実習で技能を習得する。 【思考・判断・表現】 年間で2 回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で2 回の定期考査や調理実習、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		

2 学 期	B 単元 衣食住の生活の自立と設計 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で2回の定期考査で理解度を測る。 2学期で10時間の被服実習で技能を習得する。 年間6回の調理実習で技能を習得する。 【思考・判断・表現】 年間で2回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で2回の定期考査や調理実習、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○	○	16
	A 単元 人と一生と家族・家庭及び福祉 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で2回の定期考査で理解度を測る。 年間6回の実習で技能を習得する。 【思考・判断・表現】 年間で2回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で2回の定期考査や調理実習、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○	○		8
	B 単元 衣食住の生活の自立と設計 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で2回の定期考査で理解度を測る。 年間6回の調理実習で技能を習得する。 【思考・判断・表現】 年間で2回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で2回の定期考査や調理実習、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○		○	8
3 学 期	B 単元 衣食住の生活の自立と設計 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 年間で2回の定期考査で理解度を測る。 年間6回の調理実習で技能を習得する。 【思考・判断・表現】 年間で2回の定期考査や課題、プリント提出などにより思考力等を測る。 【主体的に学習に取り組む態度】 年間で2回の定期考査や調理実習、プリント提出などにより取り組む態度等を見る。	○		○	8
							合計
							59

高等学校 令和8年度

教科工業

科目機械基礎

教科工業

科目機械基礎

単位数1単位

対象学年組第2学年1組～2組

教科担当者(1組:大里)(2組:栗股)(組:)(組:)(組:)(組:)

使用教科書()

教科工業

の目標:

【知識及び技能】機械工作に関する基礎的な知識と技術を理解して身につけている。

【思考力、判断力、表現力等】機械のしくみや機械をつくる技術を自然法則と関連付けて考察し、判断できるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】機械工作を材料、計測、生産管理を含めて学び、実際に活用できる能力と態度を身につけている。

科目機械基礎

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
機械工作に関する基礎的な知識と技術を理解し、ものづくりにおけるいろいろな場面で問題解決を試みる能力を身につけている。	機械工作に関する問題に対して、基礎的な知識と技術を活用して展開できるとともに、創意工夫により解決できる。	身近な製品に興味関心を持ち、そこから得られる知識や技術を適切に習得し、ものづくりに活用する態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	切削加工	①分類 ②工作機械と切削工具 ③切削工具と切削条件 ④切削理論 ⑤工作機械の構成と駆動装置	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	10
2 学期	砥粒加工	①分類 ②研削 ③砥石車 ④いろいろな研削・研磨 ⑤遊離砥粒による加工	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	10
	特殊加工と三次元造形技術	①熱加工 ②化学的な加工 ③力学的な加工	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	5
3 学期	表面処理	①めっき ②化学処理と陽極酸化処理 ③いろいろな皮膜処理	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	10

高等学校 令和8年度

教科 工業

科目 機械工作

教科 工業

科目 機械工作

単位数 2 単位

対象学年組 第 2 学年 1 組 ～ 組

教科担当者 (1 組 : 嶋田) (組 :) (組 :) (組 :) (組 :) (組 :)

使用教科書 (機械工作 1 新訂版 [実教出版] ・ 機械工作 2 新訂版 [実教出版])

教科 工業

の目標

【知識及び技能】工業科として、ものづくりに関する知識と技能を習得するために意欲的に活動できる。

【思考力、判断力、表現力等】工業科として、ものづくりに必要な思考を深め、問題解決を図る為の判断及び表現を高める。

【学びに向かう力、人間性等】工業科として、ものづくりへの興味関心を高め、自ら学ぶ力を向上させる。

科目 機械工作

の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
機械工作に関する基礎的な知識と技術を理解し、機械材料・切削加工・生産管理・品質管理に関する知識を身につけている。	諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、機械材料・切削加工・生産管理・品質管理に関する知識を組み合わせ適切に判断することができる。	機械工作に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	機械材料	①引っ張り強さ、硬さ、じん性と疲労 ②金属の結晶構造、鉄鋼材料 ③非鉄金属材料、非金属材料	考查、出席状況、授業態度、学習に関する取り組み	○	○	○	18
	切削加工	①切削加工の概要、切削加工と切削工具、工作機械と切削工具の運動 ②工作機械、切削工具 ③切削加工の概要、切削加工と切削工具、工作機械と切削工具の運動	考查、出席状況、授業態度、学習に関する取り組み	○	○	○	6
2 学 期	切削加工	①工作機械、切削工具 ②切削工具と切削条件	考查、出席状況、授業態度、学習に関する取り組み	○	○	○	9
	生産管理	①生産計画と管理のあらまし	考查、出席状況、授業態度、学習に関する取り組み	○	○	○	3
	品質管理	①製品企画、製品設計、生産計画 ②生産管理、工程管理	考查、出席状況、授業態度、学習に関する取り組み	○	○	○	12
3 学 期	品質管理	①資材管理、設備管理、原価管理 ②品質管理、品質標準 ③品質保証、品質システム	考查、出席状況、授業態度、学習に関する取り組み	○	○	○	18

高等学校 令和8年度

教科工業

科目機械設計

教科：工業

科目：機械設計

単位数：2単位

対象学年組：第2学年1組～組

教科担当者：（1組：北爪）（組：）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（機械設計1 新訂版〔実教出版〕・機械設計2 新訂版〔実教出版〕）

教科工業

の目標：

【知識及び技能】設計における基本的な計算・機械に働く力と仕事・材料の強さなどについて理解する。

【思考力、判断力、表現力等】設計における基本的な計算・機械に働く力と仕事・材料の強さなどについて説明できる。

【学びに向かう力、人間性等】設計における基本的な計算・機械に働く力と仕事・材料の強さなど学習が意欲的に取り組むことができる。

科目機械設計

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
設計に関する基礎的な知識と技術を理解し、一般的な計算（面積・三角関数）、力、仕事、材料の強さ、応力・ひずみ、せん断、曲げ等に関する知識を身につけている。	諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、一般的な計算（面積・三角関数）、力、仕事、材料の強さ、応力・ひずみ、せん断、曲げ等に関する知識を組み合わせで適切に判断することができる。	設計に関する基礎的な知識と技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	機械の仕組み 機械要素と標準化 機械設計	機械のなりたち・機械の仕組み・機械要素と標準化。・設計の進め方について、機械とはどのようなものなのかを機械としての条件に当てはめて考える。・主な単位や記号・計算について	毎時間のノートやプリントの状況、定期考査の得点、出席状況、授業態度などから総合的に判断して評価する	○	○	○	6
	機械に働く力と仕事	力の3要素を理解し、力の合成・分解を直角な2力の合成・分解で理解させる。（主に作図法から導く）	毎時間のノートやプリントの状況、定期考査の得点、出席状況、授業態度などから総合的に判断して評価する	○	○	○	8
		力の3要素を理解し、力の合成・分解を直角な2力の合成・分解で理解させる。（主に作図法から導く）回転運動を理解するうえで、力のモーメント＝力×モーメントの腕を考える。	毎時間のノートやプリントの状況、定期考査の得点、出席状況、授業態度などから総合的に判断して評価する	○	○	○	8
2 学期	材料の強さと使い方	材料の機械的性質・引張り・圧縮を受ける部材の変形について考える。	毎時間のノートやプリントの状況、定期考査の得点、出席状況、授業態度などから総合的に判断して評価する	○	○	○	10
		材料の機械的性質・引張り・圧縮を受ける部材の変形について考える。 （引張・圧縮応力の意味と、応力＝荷重÷断面積の計算練習）	毎時間のノートやプリントの状況、定期考査の得点、出席状況、授業態度などから総合的に判断して評価する	○	○	○	10
		材料の機械的性質・引張り・圧縮を受ける部材の変形について考える。 （材料の機械的性質からその使い方を理解する）	毎時間のノートやプリントの状況、定期考査の得点、出席状況、授業態度などから総合的に判断して評価する	○	○	○	8
3 学期	材料の強さと使い方	車軸や橋げたを例にとり、曲げを受ける部材の強さを理解する。 （はりの種類と、はりに加わる荷重の種類を理解する）	毎時間のノートやプリントの状況、定期考査の得点、出席状況、授業態度などから総合的に判断して評価する	○	○	○	6
		曲げを受ける部材の強さを理解する。 （いろいろな種類のはりに加わる荷重について、計算で曲げ応力を求め、曲げ応力図を作成する）	毎時間のノートやプリントの状況、定期考査の得点、出席状況、授業態度などから総合的に判断して評価する	○	○	○	8
		せん断荷重を受ける部材の強さを理解する。 （いろいろな種類のはりに加わる荷重について、計算でせん断応力を求め、せん断力図を作成する）	毎時間のノートやプリントの状況、定期考査の得点、出席状況、授業態度などから総合的に判断して評価する	○	○	○	6

高等学校 令和8年度

教科工業

科目原動機

教科工業

科目原動機

単位数2単位

対象学年組第2学年2組組

教科担当者(2組栗俣)(組)(組)(組)(組)(組)

使用教科書(原動機〔実教出版〕)

教科工業

の目標

【知識及び技能】工業科として、ものづくりに関する知識と技能を習得するために意欲的に活動できる。

【思考力、判断力、表現力等】工業科として、ものづくりに必要な思考を深め、問題解決を図る為の判断及び表現を高める。

【学びに向かう力、人間性等】工業科として、ものづくりへの興味関心を高め、自ら学ぶ力を向上させる。

科目原動機

の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
原動機に関する基礎的な知識と技術を理解し、エネルギーの利用の歴史・流体の基本的性質・内燃機関・圧力・管路の流れ・流体のエネルギー・エネルギー損失に関する知識を身につけている。	諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、エネルギーの利用の歴史・流体の基本的性質・内燃機関・圧力・管路の流れ・流体のエネルギー・エネルギー損失に関する知識を組み合わせて適切に判断することができる。	原動機に関する基礎的な知識と技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	エネルギーの利用の歴史	①エネルギーの歴史 ②身近なエネルギーの利用 ③熟エネルギーの利用	考查、出席状況、授業態度、学習に関する取り組み	○	○	○	6
	流体の基本的性質	①単位の意味と換算 ②密度・体積・質量・比重 ③圧縮性 ④粘度	考查、出席状況、授業態度、学習に関する取り組み	○	○	○	9
	内燃機関	①内燃機関のあらまし ②内燃機関の基礎 ③往復機関の基礎	考查、出席状況、授業態度、学習に関する取り組み	○	○	○	9
2 学 期	圧力	①圧力の基礎 ②圧力の単位 ③パスカルの原理 ④絶対圧とゲージ圧	考查、出席状況、授業態度、学習に関する取り組み	○	○	○	12
	管路の流れ	①定常流と非定常流 ②流速と流量 ③連続の式	考查、出席状況、授業態度、学習に関する取り組み	○	○	○	12
3 学 期	流体のエネルギー	①圧力のエネルギー ②運動エネルギー ③重力による位置エネルギー ④ベルヌーイの定理 ⑤トリチェリの定理	考查、出席状況、授業態度、学習に関する取り組み	○	○	○	9
	エネルギー損失	①ベルヌーイの定理と損失 ②管摩擦損失 ③管路形状による損失	考查、出席状況、授業態度、学習に関する取り組み	○	○	○	9

科目 実習

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	①各種加工Ⅰ（旋盤・フライス盤）、ガス溶接、CAD実習についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心をもち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	6
	①各種加工Ⅰ（旋盤・フライス盤）、ガス溶接、CAD実習についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心をもち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	12
	①各種加工Ⅰ（旋盤・フライス盤）、ガス溶接、CAD実習についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心をもち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	12
	①各種加工Ⅰ（旋盤・フライス盤）、ガス溶接、CAD実習についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心をもち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	6
2 学 期	①各種加工Ⅰ（旋盤・フライス盤）、ガス溶接、CAD実習についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心をもち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	12
	①各種加工Ⅰ（旋盤・フライス盤）、ガス溶接、CAD実習についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心をもち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	9
	①各種加工Ⅰ（旋盤・フライス盤）、ガス溶接、CAD実習についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心をもち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	12
	①各種加工Ⅰ（旋盤・フライス盤）、ガス溶接、CAD実習についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心をもち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	8

	扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける		③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	9
3 学 期	①各種加工Ⅰ（旋盤・フライス盤）、ガス溶接、CAD実習についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	9
	①各種加工Ⅰ（旋盤・フライス盤）、ガス溶接、CAD実習についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	9
	①各種加工Ⅰ（旋盤・フライス盤）、ガス溶接、CAD実習についての知識と技術の習得 ②工作機械や作業設備・実験器具の扱いや問題点について、その内容や結果を適切に伝える ③興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付ける	①安全作業のもと、作品を完成させる ②作業内容の報告書 ③安全作業のもとでの授業態度	①安全作業のもと作業工程通りに作品が出来たか ②作業内容についての的確に報告できているか ③興味関心を持ち、積極的に学んだか	○	○	○	9
							合計 105

年間授業計画 様式例

高等学校 令和8年度

教科工業

科目生産技術

教科工業

科目生産技術

単位数2単位

対象学年組第2学年1組～2組

教科担当者(1組:大里)(2組:大里)(組:)(組:)(組:)(組:)

使用教科書(生産技術〔実教出版〕)

教科工業の目標:
【知識及び技能】生産技術におけるネットワーク化や自動化について理解し、生産の合理化を理解している。
【思考力、判断力、表現力等】生産技術に関する基礎的な知識や技術を基に、ものづくりにおいて適切な判断ができる。
【学びに向かう力、人間性等】生産技術に興味関心を持ち、いろいろな関わりに主体的に取り組める態度を身につけている。

科目生産技術の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生産技術の各分野に関する基礎的な知識と技術を理解し、生産における諸問題を適切に処理する知識を身につけている。	生産技術に関する諸問題の適切な解決をめざし、基礎的な知識と技術の活用と展開ができる。	生産工業と社会のかかわりにおける問題解決について主体的に取り組み、実践的に改善する態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	生産技術を学ぶにあたって	①工業技術の発達による社会変化 ②コンピュータをはじめとする進化 ③国際化と倫理観と環境	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	9
	生産における制御技術	①生産システムにおける自動制御の分類と機能 ②センサの種類・原理・特徴・用途 ③シーケンス制御 ④フィードバック制御	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	15
2 学期	生産における制御技術	①コンピュータの基本構成と5装置の機能・電気信号の種類 ②インターフェース ③コンピュータ制御 ④マイクロコンピュータ制御 ⑤マイコンの組み込みシステム ⑥企業内ネットワーク ⑦工場内ネットワークとシステム	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	9
	ロボット技術	①ロボットの変遷・分類 ②ロボットの機構と運動	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	9
	ロボット技術	①制御技術・ロボット言語・材料・サーボ機構 ②安全管理	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	6
3 学期	生産の自動化技術	①CAD/CAM ②NC工作機械 ③生産の自動化・システムの構成	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	18

年間授業計画 様式例

高等学校 令和8年度

教科工業

科目プログラミング技術

教科：工業

科目：プログラミング技術

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 4 組～ 組

教科担当者：（4組：平出）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（ プログラミング技術(実教出版) ）

教科 工業

の目標：

【知識及び技能】 コンピュータを使用して問題を解決するための処理手順を理解している。

【思考力、判断力、表現力等】 基本的なアルゴリズムと処理手順を実際にプログラミングすることを通して理解する。

【学びに向かう力、人間性等】 コンピュータの問題処理手段としてのプログラミングに興味・関心を持っている。

科目 プログラミング技術

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
C言語プログラミング技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、プログラミングにおける諸問題を適切に処理する知識を身につけている。	処理の対象となる問題を正確に分析し、適切な処理手順を考え、プログラムを作成する実践的な能力を身につける。	デバッグやトレースなどを通じて、プログラムが正しく動作するか確認できる技能を有し、期待通りに動作するプログラムの作成に取り組むことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	アルゴリズムとシステム開発	①アルゴリズム ②プログラム開発環境	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	9
	プログラミング技法Ⅰ	①基本的なプログラム ②プログラムの制御構造 ③条件分岐・ループ	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	15
2 学期	プログラミング技法Ⅰ	①配列	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	9
	プログラミング技法Ⅱ	①関数 ②標準化とデータ構造	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	9
3 学期	プログラミング技法Ⅱ	①構造体とデータ構造 ②ファイル処理	考查得点、出席状況、授業態度、毎時間の提出物などから総合的に評価する	○	○	○	18

高等学校 令和 8 年度 教科		工業	科目 電気回路（2 年）
教 科：	工業	科 目：	電気回路（2 年）
対象学年組：	第 2 学年 3 組～ 4 組	単位数：	単位
教科担当者：	（ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）		
使用教科書：	（ ）		
教科 工業	の目標：		
【 知 識 及 び 技 能 】工業分野に関する基礎的・基本的な知識を体系的に理し、実習や実験を通して、安全かつ適切に機器・器具を			
【思考力、判断力、表現力等】工業的な課題について、根拠をもって考察・判断でき、問題解決に向けて適切な方法を選択・実行できる。			
【学びに向かう力、人間性等】主体的に学習に取り組み、継続的に技能向上を目指す姿勢を養い、他者と協働しながら、責任をもって作業に			
科目 電気回路（2 年）	の目標：		

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価標準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・帯電体による静電現象を身近な例によって理解させ、クーロンの法則を利用して静電力の計算を習熟させる。 ・電界と電界の強さ、電束と電束密度について理解させる。 ・電位と電位差、静電容量について理解させる。	第3章 静電気 1. 電荷と電界	授業様子、小テスト、提出物 クーロンの法則を利用して静電力の計算できる。 電界と電界の強さ、電束と電束密度について理解できる。 電位と電位差、静電容量について理解できる。	○	○	○	5
	・平行板コンデンサに電荷が蓄えられる現象を理解させる。 ・コンデンサの並列・直列接続について理解させ、合成静電容量の計算を習熟させる。 ・絶縁破壊現象や絶縁破壊電圧の強さについて理解させる。 ・放電現象と、その種類について理解させる。	第3章 静電気 1. コンデンサ 2. 絶縁破壊と放電現象	授業様子、小テスト、提出物 平行板コンデンサに電荷が蓄えられる現象を理解できる。 コンデンサの並列・直列接続について理解でき、合成静電容量の計算できる。 絶縁破壊現象や絶縁破壊電圧の強さについて理解できる。 放電現象と、その種類について理解できる。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	・磁気現象を理解させるとともに、クーロンの法則を用いた計算方法を習熟させる。 ・アンペアの右ねじの法則を用いて、電流によってどのような磁界がつくられるかを理解させる。	第4章 磁気 1. 電流と磁界 2. 磁界中の電流に働く力	授業様子、小テスト、提出物 アンペアの右ねじの法則を用いて、電流によってどのような磁界がつくられるかを理解できる。 アンペアの周回路の法則について理解させ、磁界の大きさを求める計算できる。	○	○	○	8
	・点磁荷による磁界の強さや、電流のつくる磁界の大きさについて理解させる。 ・アンペアの周回路の法則について理解させ、磁界の大きさを求める計算を習熟させる。	第4章 磁気 1. 磁性体と磁気回路 2. 電磁誘導と電磁エネルギー	授業様子、小テスト、提出物 ンペアの周回路の法則について理解させ、磁界の大きさを求める計算できる。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
2 学 期	・正弦波交流の特徴と起電力の発生原理、周波数と周期の関係を理解させる。 ・度とラジアンの関係や、角速度と角周波数の関係について理解させる。 ・位相と位相差、ベクトルの性質や演算則、合成などを理解させ、交流	第5章 交流回路 1. 交流の発生と表し方 2. 交流回路の電流・電圧	授業様子、小テスト、提出物 正弦波交流の特徴と起電力の発生原理、周波数と周期の関係を理解できる。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	・$R \cdot L \cdot C$単独回路に関する特徴などについて理解させる。 ・$R L \cdot R C \cdot R L C$直列回路に関する特徴などについて理解させる。	第5章 交流回路 1. 交流回路の電流・電圧 2. 交流回路の電力	授業様子、小テスト、提出物 $R L \cdot R C \cdot R L C$ 直列回路に関する特徴などについて理解できる。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
3 学 期	・$R \cdot L \cdot C$の単独回路について、$V \cdot I \cdot Z$を複素数で表す方法を理解させる。	第6章 交流回路の計算 1. 記号法の取り扱い 2. 記号法による計算 3. 回路に関する定理	授業様子、小テスト、提出物 $R \cdot L \cdot C$ の単独回路について、 $V \cdot I \cdot Z$ を複素数で表す方法を理解できる。	○	○	○	6
	・三相交流の発生や三相交流回路の基本的な結線方法について理解させる。	第7章 三相交流 1. 三相交流の基礎 2. 三相交流 3. 三相電力	授業様子、小テスト、提出物 三相交流の表し方、△結線、Y結線の換算について理解できる。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
							合計 62

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2年生） 教科 工業 科目 電気製図

教科：工業 科目：電気製図

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 3組

教科担当者：（3組：星野）（3組：菊池）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（707製図 実教出版）

教科 工業 の目標：

【知識及び技能】工業科として、ものづくりに関する知識と技能を習得するために意欲的に活動できる。

【思考力、判断力、表現力等】工業科として、ものづくりに必要な思考を深め、問題解決を図る為の判断及び表現を高める。

【学びに向かう力、人間性等】工業科として、ものづくりへの興味関心を高め、自ら学ぶ力を向上させる。

科目 電気製図 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
製図の基礎・基本を学ぶとともに、設計製図法に至るまでの知識・技術を習得する。	図面の活用に関する課題を発見し、製図に関する規格に基づきながら電気機械・器具や電気設備等に関する作図に対応した能力を養う。	製図に関する規格を理解し、C A Dシステムによる作図の能力の向上を目指し、自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	○線の組み合わせや図記号の使用方法を理解させるとともに、線・文字・記号などを正しくかけるようにする。 ○図形の尺度や寸法について理解させ、正しい記入方法を習得させる。	○製図の基本	【知識・技能】 製図の基礎的知識を理解している。 【思考・判断・表現】 製図の図面として備えるべき要素について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に課題作成に取り組んでいる。	○	○	○	4
	○電気用図記号の形状を正しい比率でかけるようにさせる。 ○基礎受動部品の図記号が正しくかけるようにさせる。 ○半導体素子の図記号が正しい形状比率でかけるようにさせる。 ○電気用図記号に文字や記号、数値を併記するさいの記入方法を習得させる。	○電気用図記号	【知識・技能】 電気用図記号の形状等について理解している。 【思考・判断・表現】 電気回路の図面から、電気用図記号の形状の比率や併記する文字や数値について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に課題作成に取り組んでいる。	○	○	○	10
	○コンピュータを利用した作図システムの概要やソフトウェアについて理解させる。 ○CADシステムに関する規格や用語および、CADシステムの機能を理解させる。 ○CADシステムを利用した図面の作図手順などについて理解させる。	○CADシステムによる製図の基礎	【知識・技能】 CADシステムによる作図の概要について理解している。 【思考・判断・表現】 CADシステムの機能から、CADシステムによる作図の手順について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に課題作成に取り組んでいる。	○	○	○	10
2 学 期	○CADシステムによる電子機器回路の構成図と回路接続図をかけるようにする。	○CADシステムによる電子機器回路の製図	【知識・技能】 CADシステムによる電子機器回路の作図方法について理解している。 【思考・判断・表現】 CADシステムの利用による作図を通して、電気機器回路の構成について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に課題作成に取り組んでいる。	○	○	○	20
	○シーケンス制御の基礎的な知識と動作順序を理解させ、展開接続図をかけるようにさせる。 ○変電設備の各種接続図のかき方や図記号などについて理解させる。	○CADシステムによる電気設備の製図	【知識・技能】 CADシステムによる電気設備の作図方法について理解している。 【思考・判断・表現】 CADシステムの利用による作図を通して、電気設備の構成について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に課題作成に取り組んでいる。	○	○	○	14
3 学 期	○デジタル回路を用いた各種の応用機器の動作原理を理解し、回路図をかけるようにする。 ○「電気設備に関する技術基準」や「内線規程」に基づいた屋内配線図がかけるようにする。	○CADシステムによる集積回路と応用機器の製図 ○CADシステムによる屋内配線図の製図	【知識・技能】 CADシステムによるデジタル回路の応用機器や屋内配線図の作図方法について理解している。 【思考・判断・表現】 CADシステムの利用による作図を通して、デジタル回路の応用機器や屋内配線の構成について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に課題作成に取り組んでいる。	○	○	○	12

高等学校 令和8年度（2年生） 教科 工業 科目 電子回路

教科：工業

科目：電子回路

単位数：

単位

対象学年組：第 2 学年 4 組～ 組

教科担当者：（4 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（電子回路 実教出版）

教科 工業 の目標：

【知識及び技能】工業科として、ものづくりに関する知識と技能を習得するために意欲的に活動できる。

【思考力、判断力、表現力等】工業科として、ものづくりに必要な思考を深め、問題解決を図る為の判断及び表現を高める。

【学びに向かう力、人間性等】工業科として、ものづくりへの興味関心を高め、自ら学ぶ力を向上させる。

科目 電子回路 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
電子回路において、機能や特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。	電子回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する能力を養う。	電子回路を設計・制作する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	○電子回路を形つくる半導体の利用したものであり、種類や電気的性質の理解を深める。 ○ダイオードの特性・種類・利用法について理解を深める。 ○トランジスタの動作原理や統制について理解を深める。 ○電界効果トランジスタの構造や基本的な動作原理について理解を深める。 ○その他の半導体素子について知るとともに理解を深める。 ○半導体基板上につくり込んだ集積回路について、理解するとともに基礎となる部分について理解を深める。	○半導体 ○ダイオード ○トランジスタ ○電界効果トランジスタ ○その他の半導体素子 ○集積回路	○主体的に学習に対する取り組み及び授業態度 ○ワークシート等を思考・判断に基づいて作成した提出物 ○電子回路の基本的知識・技能を身に付ける出席状況	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	○トランジスタによる電圧・電流・電力の増幅について、原理・増幅器に関する基礎的な理解を深める。 ○トランジスタの基本的な使用方法、増幅度の計算方法の理解を深める。 ○バイアス回路の種類・特徴・安定度について理解を深める。 ○小信号増幅回路の増幅度と周波数特性、コンデンサの影響について理解を深める。 ○電流帰還バイアス回路を用いた回路を設計し、電圧・電流増幅度や入出力インピーダンスの計算について理解を深める。 ○電界効果トランジスタを用いた小信号回路について理解を深める。	○増幅とは ○トランジスタ増幅回路の基礎 ○トランジスタのバイアス回路 ○トランジスタによる小信号増幅回路 ○トランジスタによる小信号臓腑回路の設計 ○電界効果トランジスタによる小信号増幅回路	○主体的に学習に対する取り組み及び授業態度 ○ワークシート等を思考・判断に基づいて作成した提出物 ○電子回路の基本的知識・技能を身に付ける出席状況	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
2 学 期	○増幅回路内部では、波形がひずんだり、雑音が発生するため、問題を改善するために使用される負帰還増幅回路について、理解を深める。 ○差動増幅回路の概要を知るとともに演算増幅器の特徴及び使い方について理解を深める。 ○電力増幅回路で、効率よく増幅するか、発熱に対して動作を安定させるか理解を深める。 ○同調回路を用いて特定の周波数の範囲だけ増幅するか理解を深める。	○負帰還増幅回路 ○差動増幅回路と演算増幅器 ○電力増幅回路 ○高周波増幅回路	○主体的に学習に対する取り組み及び授業態度 ○ワークシート等を思考・判断に基づいて作成した提出物 ○電子回路の基本的知識・技能を身に付ける出席状況	○	○	○	12
	○発信回路の原理と、回路が発信する条件などについて理解を深める。 ○コイル（L）とコンデンサ（C）を用いた回路の動作原理や実際の回路について理解を深める。	○発信回路の基礎 ○LC発信回路	○主体的に学習に対する取り組み及び授業態度 ○ワークシート等を思考・判断に基づいて作成した提出物 ○電子回路の基本的知識・技能を身に付ける出席状況	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	○コンデンサ（C）と抵抗（R）を用いた回路の動作原理について理解を深める。 ○水晶発振回路の動作原理について理解を深める。	○CR発信回路 ○水晶発振回路	○主体的に学習に対する取り組み及び授業態度 ○ワークシート等を思考・判断に基づいて作成した提出物 ○電子回路の基本的知識・技能を身に付ける出席状況	○	○	○	6
	○変調と復調のの原理や種類について理解を深める。 ○振幅変調の基礎と復調の基礎について理解を深める。 ○周波数変調の基礎と復調の基礎について理解を深める。	○変調・復調の基本 ○振幅変調・復調 ○周波数変調・復調	○主体的に学習に対する取り組み及び授業態度 ○ワークシート等を思考・判断に基づいて作成した提出物 ○電子回路の基本的知識・技能を身に付ける出席状況	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	○ハルスに関する基本的な事項及びC R回路の応答について理解を深める。 ○各種マルチバイブレータの回路と動作について理解を深める。	○パルス波形とC R回路の応答 ○マルチバイブレータ ○波形整形回路	○主体的に学習に対する取り組み及び授業態度 ○ワークシート等を思考・判断に基づいて作成した提出物 ○電子回路の基本的知識・技能を身に付ける出席状況	○	○	○	12

3 学 期	○波形整形回路について理解を深める。						
	○交流電圧から直流電圧に変換させる電源回路の構成及び諸特性について理解を深める。 ○直列制御電源回路における安定回路（直列制御安定化回路）について理解を深める。 ○スイッチング制御電源回路の基本について理解を深める。	○電源回路の基礎 ○直列制御電源回路 ○スイッチング制御電源回路	○主体的に学習に対する取り組み及び授業態度 ○ワークシート等を思考・判断に基づいて作成した提出物 ○電子回路の基本的知識・技能を身に付ける出席状況	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1

高等学校 令和8年度 教科

工業

科目 電子技術

教科：工業

科目：電子技術

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 3

教科担当者：（3組： 野村 ）

使用教科書：（ 工業744 電子技術 ）

教科 工業

の目標：

- 【知識及び技能】工業分野に関する基礎的・基本的な知識を体系的に理し、実習や実験を通して、安全かつ適切に機器・器具を
- 【思考力、判断力、表現力等】工業的な課題について、根拠をもって考察・判断でき、問題解決に向けて適切な方法を選択・実行できる。
- 【学びに向かう力、人間性等】主体的に学習に取り組み、継続的に技能向上を目指す姿勢を養い、他者と協働しながら、責任をもって作業に

科目 電子技術

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
電子回路の基礎（電流・電圧・抵抗・半導体の性質）を理解する ダイオードやトランジスタなど電子部品の動作原理を理解する 回路の組立・測定・解析に関する基本技能を習	電子回路の動作を論理的に考察できる 測定結果や現象を分析し、適切に判断できる 技術的内容を図や言葉で分かりやすく表現できる	主体的に電子回路の製作や実験に取り組む態度を育成する 安全意識を持ち、責任ある行動ができる 協働的に作業を進める力と技術者としての倫理観を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・原子の構造、自由電子、正孔、共有結合、キャリヤについて理解させる。 ・半導体を抵抗率によって定義し、シリコンなどの半導体の種類にn形、p形があることを理解させる。	第1章 半導体素子 1. 原子と電子 2. 半導体	授業様子、小テスト、提出物 半導体を抵抗率によって定義し、シリコンなどの半導体の種類にn形、p形があることを理解できる。	○	○	○	5
	・ダイオードの整流作用と特性について理解させる。 ・定電圧ダイオード、可変容量ダイオードについて理解させる。 ・バイポーラトランジスタの基本的な動作・直流電流増幅率と最大定格などについて理解させる。	3. ダイオード 4. トランジスタ 5. 電界効果トランジスタ（FET）	授業様子、小テスト、提出物 バイポーラトランジスタの基本的な動作・直流電流増幅率と最大定格などについて理解できる。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	・ICの分類（素子数・構造・機能・外形）について理解させる。 ・発光素子と受光素子、ホトカプラ、ホトインタラプタについて理解させる。	6. 集積回路（IC） 7. 発光素子と受光素子	授業様子、小テスト、提出物 発光素子と受光素子、ホトカプラ、ホトインタラプタについて理解できる。	○	○	○	8
	・トランジスタを用いた基本増幅回路、バイアス回路、静特性と増幅回路の動作、増幅度と周波数特性、hパラメータと等価回路などについて理解させる。	第2章 アナログ回路 1. 増幅回路の基礎 2. FETを用いた増幅回路の基礎	授業様子、小テスト、提出物 トランジスタを用いた基本増幅回路、バイアス回路、静特性と増幅回路の動作、増幅度と周波数特性、hパラメータと等価回路などについて理解できる。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
2 学 期	・負帰還増幅回路、FET増幅回路、演算増幅回路、電力増幅回路、高周波増幅回路などについて理解させる。 ・発振とは何か、発振させるための条件、LC発振回路、CR発振回路、水晶発振回路などについて理解させる。	3. いろいろな増幅回路 4. 発振回路 5. 変調回路と復調回路 6. 直流電源回路	授業様子、小テスト、提出物 発振とは何か、発振させるための条件、LC発振回路、CR発振回路、水晶発振回路などについて理解できる。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	・AND回路、OR回路、NOT回路、NAND回路、NOR回路の機能、論理式、図記号、真理値表などについて理解させる。また、各種フリップフロップ、デジタルICについて理解させる。	第3章 デジタル回路 1. デジタル回路	授業様子、小テスト、提出物 各種フリップフロップ、デジタルICについて理解できる。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
3 学 期	・電話機の原理と種類、電話の手動交換と自動交換、通信線路、伝送理論、通信の多重化と光通信などについて理解させる。	第4章 通信システムの基礎 1. 有線通信システム	授業様子、小テスト、提出物 ・電話機の原理と種類、電話の手動交換と自動交換、通信線路、伝送理論、通信の多重化と光通信などについて理解できる。	○	○	○	8
	・電波とアンテナ、携帯電話、マイクロ波通信、衛星通信、衛星放送、無線送信機と無線受信機などについて理解させる。	2. 無線通信システム	授業様子、小テスト、提出物 電波とアンテナ、携帯電話、マイクロ波通信、衛星通信、衛星放送、無線送信機と無線	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
							合計 79

高等学校 令和8年度

教科 工業

科目 電子情報実習

教科：工業

科目：電子情報実習

単位数：3 単位

対象学年組：第 2 学年 4 組～ 組

教科担当者：（4組：野村・大里・渡邊 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（ なし ）

教科 工業

の目標：

【知 識 及 び 技 能】工業科として、ものづくりに関する知識と技能を習得するために意欲的に活動できる。

【思考力、判断力、表現力等】工業科として、ものづくりに必要な思考を深め、問題解決を図る為の判断及び表現を高める。

【学びに向かう力、人間性等】工業科として、ものづくりへの興味関心を高め、自ら学ぶ力を向上させる。

科目 電子情報実習

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
電子情報実習に関する基礎的な知識と技術を理解し、電子計測実習、電気工事実習、制御実習、マイコン実習に関する知識や技術を身につけている。	諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、電子計測実習、電気工事実習、制御実習、マイコン実習に関する知識や技術を組み合わせて適切に判断することができる。	電子情報実習に関する基礎的な知識と技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	オリエンテーション ①電子計測実習 ②マイコン実習 ③電気工事実習 ④電子工作実習 ⑤制御実習 ⑥電子回路設計実習	※ オリエンテーション…授業計画、評価方法、安全教育 ①電子計測実習…ダイオードの特性試験やトランジスタ増幅回路の特性試験を通して、電子回路の計測方法を身につける。 ②マイコン実習…Arduinoを用いてマイコンの基礎知識を理解するとともに、実際に基本的なプログラムを組み、動作を確認することによって、プログラミングに対する応用力を身につける。 ③電気工事実習…第二種電気工事士、第一種電気工事士の技能試験の候補問題を作成する。 ④電子工作実習…電子回路を製作し、動作を確認することによって基本的な電子回路の仕組みを理解する。 ⑤制御実習…Telloを用いて応用的なプログラミングを行うことによって、ドローン制御の理解を深める。 ⑥電子回路設計実習…共振回路やオシロスコープの仕組みについて理解するとともに、応用力を身につける。 年間の前半は①②③のショップの組み合わせで、4回ごとにローテーションを行う。 年間の後半は④⑤⑥のショップの組み合わせで、4回ごとにローテーションを行う。	出席状況、授業態度、学習に関する取り組み、報告書の提出	○	○	○	39
2 学 期	①電子計測実習 ②マイコン実習 ③電気工事実習 ④電子工作実習 ⑤制御実習 ⑥電子回路設計実習	年間の前半は①②③のショップの組み合わせで、4回ごとにローテーションを行う。 年間の後半は④⑤⑥のショップの組み合わせで、4回ごとにローテーションを行う。	出席状況、授業態度、学習に関する取り組み、報告書の提出	○	○	○	27
3 学 期	①電子計測実習 ②マイコン実習 ③電気工事実習 ④電子工作実習 ⑤制御実習 ⑥電子回路設計実習	年間の前半は①②③のショップの組み合わせで、4回ごとにローテーションを行う。 年間の後半は④⑤⑥のショップの組み合わせで、4回ごとにローテーションを行う。	出席状況、授業態度、学習に関する取り組み、報告書の提出	○	○	○	9

高等学校

令和8年度

教科工業

科目電気実習

教科工業

科目電気実習

単位数3単位

対象学年組第2学年3組

組

教科担当者三枝長島上野

(組)(組)(組)

使用教科書なし

)

教科工業

の目標

【知識及び技能】工業科として、ものづくりに関する知識と技能を習得するために意欲的に活動できる。

【思考力、判断力、表現力等】工業科として、ものづくりに必要な思考を深め、問題解決を図る為の判断及び表現を高める。

【学びに向かう力、人間性等】工業科として、ものづくりへの興味関心を高め、自ら学ぶ力を向上させる。

科目電気実習

の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
電気実習に関する基礎的な知識と技術を理解し、電気工事実習、制御実習、パソコン実習、機器実習、工作実習、制御実習、パソコン実習、機器・高圧実習に関する知識や技術を身につけている。	諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、電気工事実習、制御実習、パソコン実習、機器実習、工作実習、制御実習、パソコン実習、機器・高圧実習に関する知識や技術を組み合わせて適切に判断することができる。	電気実習に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	オリエンテーション ①電気工事実習 ②制御実習 ③パソコン実習 ④機器実習 ⑤工作実習 ⑥制御実習 ⑦パソコン実習 ⑧機器・高圧実習	※ オリエンテーション・授業計画、評価方法、安全教育 ①電気工事実習…第二種電気工事士、第一種電気工事士の技能試験の候補問題を作成する。 ②制御実習…リレーを用いたシーケンス制御の基礎知識を理解するとともに、実際に基本的な回路を組み、動作を確認することによって、シーケンス制御に対する応用力を身につける。 ③パソコン実習…Excelを使用した情報処理を学習する。 ④機器実習…誘導電動機を実際に動作させ、特性を理解する。三相電力を測定し、特性を理解する。 ⑤工作実習…PICマイコン時計を製作する。 ⑥制御実習…PLCを用いて自動制御について理解するとともに、応用力を身につける。 ⑦パソコン実習…JW-CADを用いて屋内配線系統図を描く。 ⑧機器・高圧実習…同期発電機を実際に動作させ、特性を理解する。 各種電極について、電界・電位シミュレーションソフトにて解析し、平等電界と火花放電の関係について理解する。 年間の前半は①②③④のショップの組み合わせで、約5回ごとにローテーションを行う。 年間の後半は⑤⑥⑦⑧のショップの組み合わせで、約5回ごとにローテーションを行う。	出席状況、授業態度、学習に関する取り組み、報告書の提出	○	○	○	81
2 学 期	①電気工事実習 ②制御実習 ③パソコン実習 ④機器実習 ⑤工作実習 ⑥制御実習 ⑦パソコン実習 ⑧機器・高圧実習	年間の前半は①②③④のショップの組み合わせで、約5回ごとにローテーションを行う。 年間の後半は⑤⑥⑦⑧のショップの組み合わせで、約5回ごとにローテーションを行う。	出席状況、授業態度、学習に関する取り組み、報告書の提出	○	○	○	81
3 学 期	①電気工事実習 ②制御実習 ③パソコン実習 ④機器実習 ⑤工作実習 ⑥制御実習 ⑦パソコン実習 ⑧機器・高圧実習	年間の前半は①②③④のショップの組み合わせで、約5回ごとにローテーションを行う。 年間の後半は⑤⑥⑦⑧のショップの組み合わせで、約5回ごとにローテーションを行う。	出席状況、授業態度、学習に関する取り組み、報告書の提出	○	○	○	18

年間授業計画 様式

高等学校 令和 8 年度（2 学年用）教科 総合的な探究の時間 科目 探究防災Ⅱ

教科：総合的な探究の時間

科目：探究防災Ⅱ

单位数： 2 单位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組

教科担当者：（1組～4組：田中、瓦田、永山、柴田、村里、青柳、渡邊、山本）

(組：) (組：)

使用教科書：（なし）

教科 総合的な探究の時間 の目標：

【知識及び技能】防災に関する基礎的な知識を理解し、情報収集や安全確保などの技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】災害時の状況や課題を適切に判断し、安全な行動や防災・減災の方法について考え、分かりやすく表現できる。

【学びに向かう力、人間性等】防災について主体的に学び、他者と協力しながら安全や地域社会に貢献しようとする態度を身に付ける。

科目 探究防災Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
防災に関する基礎的な知識を理解するとともに、災害時に必要となる情報収集や情報伝達、防災機器・ICT機器の活用、安全確保や避難行動などを適切に行うための技能を身に付ける。	災害時に必要な情報を多面的に収集・分析し、地域や状況に応じた安全な行動や課題解決方法について考察するとともに、自らの考えを適切に表現し、他者と協働しながら防災・減災に向けた行動を判断できる。	防災について主体的に学び、災害時に自ら考えて行動しようとする態度を養うとともに、他者と協力しながら安全意識を高め、地域社会の防災・減災に貢献しようとする人間性を身に付ける。

[illegible]